

青少協だより

令和元年10月15日
第60号
大歳地区青少年健全育成協議会
会長 馬越 帝介

「家庭教育ってなんだろう・・・」



大歳地区青少年健全育成協議会

会長 馬越 帝介

平素は、子供たちの健全育成に向け、理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。今回は昨年に引き続き「家庭教育」について、文部科学省の記事を紹介いたします。

子供の教育の第一義的責任は親が持つものであり、尊重されなければなりません。しかしながら、子供は家庭の中だけで育つわけではありません。学校や地域の様々な人たちと関わり、見守られながら成長していきます。

かつては、親以外にも多くの大人が子供に接することで、それらが全体として家庭教育を担ったり、親同士や地域の人々とのつながりによって、親として学び、育ち合う中で、子供たちを「地域の子供」として見守り、育てるなど、地域において子育てや家庭教育を支えるしくみや環境がありました。

昨今では、都市化や核家族化、少子化、雇用環境の変化などにより、こうした地縁的なつながりや人との関係が希薄化し、親が身近な人から子育ての仕方を学ぶ機会が減ったり、子育ての悩みなど気軽に相談できる人がそばにいないといったような、親や家庭を取り巻く状況、子育てを支える環境も大きく変化しています。

また、仕事と子育ての両立の難しさなど、様々な要因を背景として、家庭の孤立化や、忙しくて時間的・精神的ゆとりを持たない状況、さらには児童虐待など、家庭をめぐる問題も深刻化してきています。

こうした状況は、決して個々の家庭だけの問題ではありません。保護者の皆さんが安心して子育てや家庭教育ができるよう、改めて、家庭教育の大切さを社会全体で考え、支援していくことが大切です。

子供たちの未来をはぐくむ家庭教育

<http://katei.mext.go.jp/contents1/index.html> より抜粋

令和元年度の青少協の活動紹介

ザ・チャレンジ大歳 お100姓さん

6月10日（月）、5年生が総合的な学習の時間に田植えの体験をしました。

今年もたくさんの地域の方々にお世話をしていただいて、教室の授業では決して味わうことができないすばらしい体験をさせていただいたことに、地域の方への感謝の思いを強くしたところです。



10月には、稲刈りも体験させていただく予定です。地域の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。



子ども達の感想

- 初めて田植えをしてみて、田植えの大変さを知りました。土をならすことや奥までしっかり苗を入れることは慣れてないからできなかつたり、忘れていたりしてなかなか上手にまっすぐ植えられませんでした。田も歩きにくくて不安定だったけれど、田植えの苦勞が知れてよかったです。（吉富 優里さん）
- 5・6時間目に田植え体験をしました。僕は初めての田植えなので、はまって転びそうになったりしたけれど、慣れてくると転ばなくなってきて田植えも上達しました。苦勞したけれど秋の収穫が楽しみです。（山根 幹太くん）
- 今回初めてしました。昔は機械がなかったので苦勞したと思いました。今は技術が進歩したので田植え機（機械）で作業ができるのがいいと思います。昔の手作業は大変と思いました。秋には上手に稲を収穫したいです。（金子 大祐くん）
- 5・6時間目にあった田植えで私は最初ぐによぐによになって気持ちが悪かったけど田植えをしていくうちにだんだん楽しくなりました。始めは少し下手だったけれど、少いうまくなりました。今日植えた苗がどんなお米になるか楽しみです。（中村 心美さん）



第21回キッズフェスティバル

7月27日（土）～28日（日）、5・6年生の希望者約80名が参加し、大歳小学校を会場に第21回キッズフェスティバルが行われました。このキッズフェスティバルは、子どもたちが夏休みの一大イベントとして楽しみにしていた行事です。大勢の友達と一緒に、普段はまず泊まることのない学校に宿泊し、野外炊飯や夕方のプール、夜の校舎探検など、様々な活動に取り組みました。去年は天候不良のため中止となりましたが、今年は、心配された天候も、夕立のおかげでかえって過ごしやすくなり、絶好のコンディションとなりました。

子どもたちがまず取り組んだのは、夕食に使用する竹の器作りです。用意された竹を適当な長さで切り、節を底にして器にします。大人が目線で見ればとても簡単な作業なのですが、そこは「のこぎりで竹を切る」という経験がほとんどない子どもたちです。時間をかけてもなかなか切ることができません。のこぎりは手前に引くときに力が伝わるよう動かさなければなりません

が、その力加減が難しかったようです。何とか切り終えた子どもは、器の縁をやすり掛けして仕上げ、ようやく完成となりました。

次に取り組んだのは、夕飯の準備「ポンポラ飯作り」です。ここでも子どもたちは悪戦苦闘しました。なかなか上手に火をおこすことができません。大きな薪に火が移る前にすぐに消えてしまいます。



それでも子どもたちは笑顔を絶やさず、楽しみながら取り組んでいました。子どもたちにとっては、普段なかなか経験できないことを体験することができ、それがまた新鮮でもあり、楽しかったようです。

ポンポラ飯は、上手に炊けた班もあれば、ほとんど火が通っていない状態で炊きあがってしまった班もありました。しかし、そこはさすがPTAの皆様。こんなこともあろうかと、地域交流センターの調理室で、バックアップとして豚丼を作ってくださいました。たくさん汗を流した後の夕飯は、とてもおいしかったようです。

～次のページに
つづく～

～つづき～



食事のあとは、お風呂代わりにプールで汗を流しました。広いプールで水遊びを楽しみながら体をクールダウンさせることができました。

夜は、グループごとに真っ暗な校舎の中を探検しました。夜の校舎というのは、子どもたちにとって、どこか不思議な感じのする空間です。やや不気味な雰囲気もすると言っていました。恐る恐る校舎の奥の方へ行きドキドキして帰ってきていた様子でした。

これらの企画は、どれをとってみてもきっと子どもたちの胸に残るよい思い出となったことと思います。企画された保護者・地域の皆様におかれましては、様々なご準備、運営、安全管理等、本当に大変だったことと思います。お陰様で子どもたちにとってはとてもよい経験ができ、すばらしい思い出ができました。本当にありがとうございました。



保護者の皆様、地域の方々、猛暑の二日間、本当にお世話になりました。ありがとうございました。

令和元年度青少協の活動計画

- 常任委員会（事業内容の検討） 5月24日
- 総会 5月30日
- ザ・チャレンジお百姓さん（田植え） 6月10日
- 地区内の危険箇所点検、周辺の草刈 6月30日（雨天中止）
- 地撮り山口大歳 7月6日
- 大歳キッズフェスティバル 7月27・28日
- 夜間パトロール（夏休み期間中に3回実施）
- 「こども110番の家」のぼり配布
- 大歳ひろめ隊の活動実施
- 広報誌「青少協だより」の発行
- 「あいさつ運動」の啓発・普及
- 児童の安全対策の推進
- 各スポーツ少年団、大歳子ども太鼓、大歳ひろめ隊等への活動助成
- ザ・チャレンジお百姓さん（稲刈り） 10月7日
- 子ども講座の開催
(将棋教室 毎月1, 2, 3, 5土曜日 9:00~11:30)



青少協は地域の方々をはじめ、児童委員、スポーツ推進委員、大歳小・鴻南中教員、小・中PTA、スポーツ少年団関係者、警察関係者など、子どもの健全育成に関わる様々な立場のメンバーで構成され、子どもの健全育成に関わる活動を行っています。